

平成20年度第8回岐阜県事業評価監視委員会

【治山課所管 事後評価審議資料】

○ 事後評価審議箇所一覧表	……………1
○ 水源地域森林総合整備【丸野】	
平成20年度 事後評価箇所表	……………2～3
パワーポイント	……………4～12

平成20年度 事後評価実施箇所一覧表

番号	担当課名	県事業		事業採択年度	完了年度	全体事業費 百万円	事業名	路線名(地区名)	施工場所
		補助	県単						
1	治山課	○		H5	H14	2,871	水源地域森林総合整備	丸野	中津川市川上
事業数計		1	1						

平成20年度事後評価箇所表

担当課〔治山課〕

番 号	事業名 (路線名等)	水源地域森林総合整備事業 丸野(まるの)	
実施箇所	中津川市川上	全体事業費	2,871百万円
採択年度	平成5年度	完了年度	平成14年度
事業目的	<p>当地区は、中津川市中心部から北約15kmに位置し、地区を縦断する川上川は、地域の重要な水源地域となっている。</p> <p>当地区は、阿寺断層が東西に縦断する急峻かつ脆弱な地質のため崩壊地が多数分布しており、降雨の度に土砂が流出していた。</p> <p>このため、土砂流出の防止、水源かん養機能の向上を主な目的として溪間工、山腹工、荒廃森林の整備を実施した。</p>		
事業概要	<p>溪間工：44基（谷止工(コ)42基、谷止工(鋼)2基、床固工1基）</p> <p>山腹工：1.23ha（土留工117基、実播工28,045.0m²、筋工5,196.7m、伏工18,181.3m²ほか）</p> <p>森林整備：987.44ha（本数調整伐539.9ha、枝落とし396.3ha、天然林改良51.2haほか）</p> <p>作業道：開設W=4.0m、L=2,266.3m</p>		
概要図			

評価結果	
①住民参加・協働による効果	
	<p>計画時および実施時において、地域住民等からの意見要望等を吸収しつつ、事業を推進した。</p>
②事業効果	
	<p>濁水の解消が短時間になり、かつ、安定した水量を供給している。 当事業の実施後、溪床勾配が緩和され土砂流出が抑止されている。 また、当地区を縦貫する川上川では、特に夏期にレジャーとしてのフィールドとして交流人口の増加に寄与している。</p>
③環境面への配慮	
	<p>土石流発生時には岩塊や流木がスリットを塞ぎ、堰上げ効果により一般の谷止工と同様の機能を果たす一方で、閉塞していない時期には動物や魚類の行動範囲を阻害しない環境に優しいスリットダムを施工した。 また、自然素材である間伐材を利用した筋工を施工した。</p>
④事業を巡る社会情勢の変化	
	<p>当該地区は最寄りの中津川I.Cから30分とアクセスも良いことから、周辺の観光施設との相乗効果により地元のみならず東海地方各地から水遊び場としてのニーズ・人気共に高いフィールドとなっている。事業実施によって川の濁りが少なくなったこともあり、近年では水遊びなどに来る観光客が増加している。 また、地域住民を対象としたアンケート結果では、森林に対する関心が高いことが伺えた。</p>
⑤利用者・地域住民等への効果	
	<p>地元住民を対象としたアンケート調査結果では、事業全体の評価として6割の方が「満足、どちらかという満足」と回答している。理由としては「土砂流出を防ぐ」と言った意見の一方で、「森林整備をさらに実施してほしい」という意見もあった。</p>
⑥対応方針	
	<p>【今後の事後評価の必要性】</p>
	<p>当事業は、水源の確保に貢献していること、土砂災害の防止に貢献していること、また、当事業に対する地域住民の満足度が高いことから事業目的を十分果たしていると判断できるため、今後の事後評価は必要としない。</p>
	<p>【改善措置の必要性】</p>
	<p>事業の効果が表れており、施設の損傷等もないため、改善措置の必要性はない。</p>
	<p>【新規事業へ適用すべき留意点】</p>
	<p>事業期間が長期となる場合は、幼齢林については成長が旺盛であるため、事業期間内に樹冠が閉塞し間伐効果が期待できなくなることから、2度の間伐を行う必要がある。</p>



水源地域森林総合整備事業とは

水源かん養機能等が低下している森林



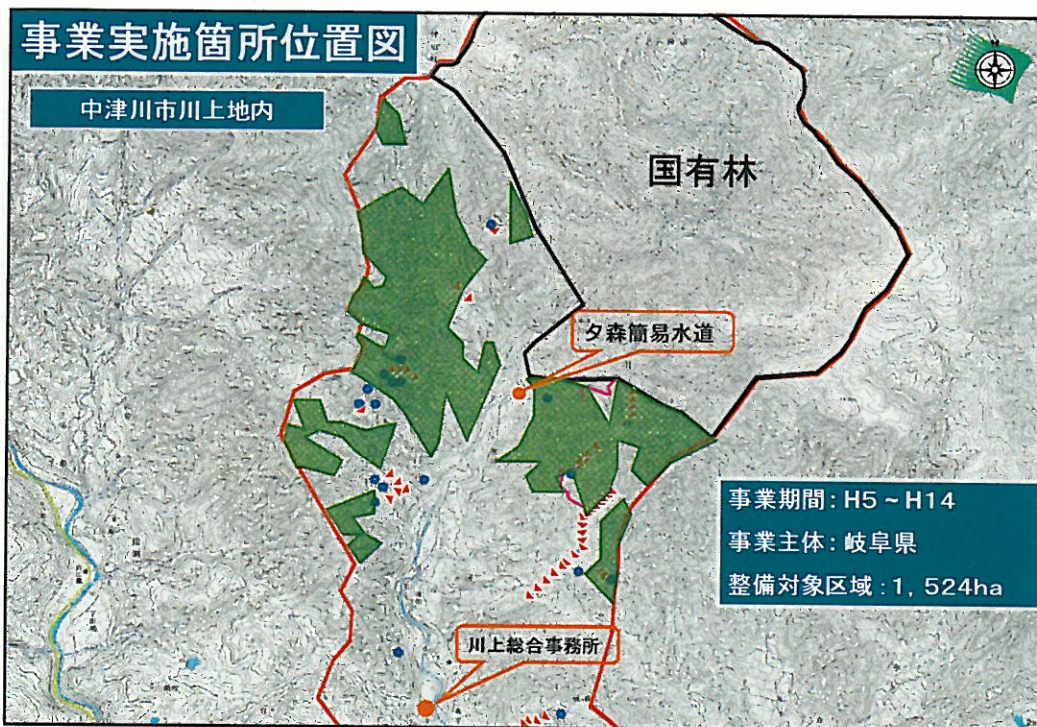
整備され機能の高い森林



事業概要

- 事業期間 : 平成5年度～平成14年度
- 総事業費 : 28億71百万円
- 整備対象区域面積 : 1,524ha
- 主要工事 : 溪間工 45基
 (谷止工 44基、床固工 1基)
 山腹工 4.9ha
 森林整備(延べ) 987.4ha
 保安林管理道 2,266m





事後評価項目

- 1 住民参加・協働による効果
- 2 事業の効果
- 3 環境面の配慮
- 4 コスト縮減の取り組み
- 5 事業を巡る社会情勢の変化
- 6 地域住民等への効果

1 住民参加・協働による効果

・ 計画段階の住民参加効果



・ 事業実施中の住民参加効果



事業目的と地域要望との調和を図り、円滑な事業実施

2 事業の効果

(1) 荒廃溪流の復旧





2 事業の効果

(4) 水資源の安定確保



簡易水道施設



農業用水取入れ口

整備後、川上川への土石の流入が減少し、簡易水道や農業用水の取水施設の破損や土砂堆積は発生していない。

2 事業の効果

(5) 事業の効果(費用対効果)

■ 事業の効果

洪水防止便益	4%
流域貯水便益	1%
水質浄化便益	2%
災害防止便益	93%

■ 投資的効果率

$$\frac{\text{効果額}}{\text{事業費}} = 4.94$$

3 環境面への配慮



木柵工の施工

4 コスト縮減の取り組み

保安林管理道計画見直し



乗乗側:L=864m

馬止側:L=1,402m

縮減項目	具体的な事例	縮減額
計画内容の見直し	6,000ma 2,266m	298,720千円



保安林管理道

5 事業を巡る社会情勢の変化

○観光

・夕森公園 : 四季を通じて優れた
景観の散策、キャンプ、水遊び

・川上川 : 水遊び、釣り



安全、快適かつ安価な遊びの場を
求めて、川上川で水遊びをする観
光客が増加している。

清流の川上川、夏期は水にふれあう観光スポット

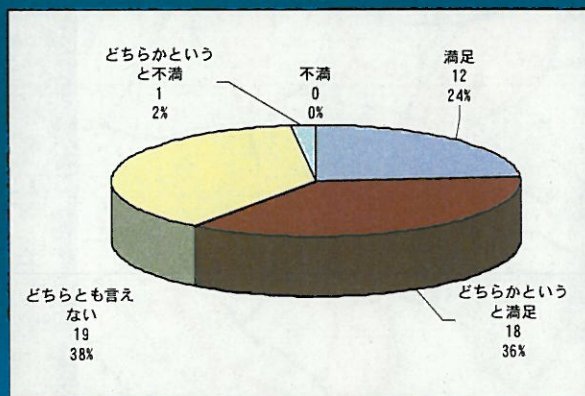


川上総合事務所前の川原 8月

6 地域住民等への効果 その1

地域住民を対象にアンケート調査を実施しました。

※アンケート回答数 79世帯 (川上地区の全世帯へ配布 311世帯 回収率25.4%)



6割が満足又はどちらかという満足と回答

6 地域住民等への効果 その2

地域住民を対象にアンケート調査を実施しました。

※アンケート回答数 79世帯

○間伐の継続実施の要望

アンケートにおいて、間伐(本数調整伐)の継続的な実施を望む意見有り。



さらなる森林整備の推進



本数調整伐実施後10年経過して林内は暗くなりつつある。
20年度に本数調整伐実施予定地

対応方針

●今後の事後評価の必要性

- ・ 水資源の安定確保に貢献していること。
- ・ 山地災害の防止に貢献していること。
- ・ 地域住民の満足度が高いこと。

今後の事後評価の
必要なし

●改善措置の必要性

- ・ 事業の効果が表れている。
- ・ 施設の損傷等はない。

改善措置の
必要性なし

●新規事業へ適用すべき留意点

- ・ 事業期間が長期となる場合は、幼齢林については事業期間内に樹冠が閉塞し、間伐効果が期待できなくなるため、2度の間伐が必要。